

(様式1)		学力向上のための重点プラン【中学校】			新宿区立西新宿中学校	
■ 学校の共通目標						
授業づくり		重 点	学級の連絡は移動式ホワイトボードに記入し、授業中ははずすことで、授業の集中力を高める。	中 間 評 価	授業アンケートで、90％以上の生徒が板書や資料がわかりやすいと回答した。	最 終 評 価
環境づくり			ICT機器を含めた教材教具や、話し合いや調べ学習などの言語活動を充実させることで、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる。		授業アンケートで、80％以上の生徒がプロジェクター、パソコンなどを使用して工夫していると回答した。	

教科	学習状況の分析（4月）	課 題（4月）	改善のための取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月） 	最終評価（2月）
国語	【調】第1学年の正答率を領域別に見ると、「書く」領域と「読む」領域の結果に、目標値と比べて課題がある。 【調】第2学年の正答率を[基礎・活用]の視点で見ると、「基礎」「活用」の結果がともに目標値を上回り、特に「思考力・判断力」「表現力」は、良好な状況にある。 【学】授業で用いるワークシートや定期考査の解答を見ると、いずれの学年でも、文や文節のつながりを、的確に読んだり書いたりすることに課題がある。	・的確に書いたり、読んだりするために必要な、基礎的な知識としての語彙力を高める。 ・「意見」「理由」「事実」を区別して話し合う力を高める。 ・文や文節のつながりを、的確に読んだり書いたりする力を高める。	・語彙力の育成を図る小テストを計画的に設定し、その準備と振り返りを積み重ねさせる。 ・全ての領域の指導において、基礎的な知識に関する既習事項を、導入などで復習する機会を意図的に設定する。 ・全ての領域の指導において、書かれた内容や伝えたい内容を、「意見」「理由」「事実」に分けて整理する機会を設ける。 ・「読むこと」の指導において、語句の意味を確かめる際に、文節のつながりについても、定期的に復習する。 ・説明的文章の指導において、文の中で省略されている接続詞について、自分の考えをもたせる機会を設ける。	・漢字テストの中に、語句の意味を選ぶ問題を設定することで、語句の意味への関心を深める生徒が増えた。 ・読み物教材における意味調べの際に、文法事項などを復習する問いを設けることで、既習事項との関連に気づかせることができた。 ・様々な教材のワークシートにおいて、「意見」とその他とを分けて整理させることで、説得力のある表現について理解を深めさせることができた。 ・読むことの指導では、段落や場面ぼどの大きなまとまりに注目させることが多かった。今後は文と文、文節と文節といった細かなつながりにも意識を向けさせていく。	・漢字テストの進め方や内容、さらには既習事項の復習の仕方を工夫したことで、多くの生徒が、語彙の学習への関心を深めることができた。ただし、その定着の度合いに個人差が見られる。 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」において、意見と具体例とを意識的に分けて表現できる生徒が増えた。また「読むこと」において、多くの生徒が大まかに内容を捉えることができるようになった。ただし、文と文との論理的な接続関係を的確に捉えることに課題がある。
	【調】第2学年では全ての観点において、全国平均を下回っている。中でも「社会的事象についての知識・理解」は正答率が全国の平均値と比較して13％下回っている。 【調】第3学年の校内の正答率度数分布と区平均を比較すると、下位層の割合が高く、上位層の割合も高い二極化の傾向が強く出ている。 【調】第3学年の達成率は全国平均と比較するとおおむね良好である。	・基礎的な用語・語句についての知識・理解力の向上を図る。 ・全体的な底上げを図るとともに、下位層への手立てと、基礎・基本的な知識を定着させる。 ・社会的事象への興味・関心をもたせる。	・単元ごとに小テストを実施し、基礎的な用語・語句の定着状況を確認する。 ・1単位時間の中で、基礎的な用語・語句を習得させるために、ワークシートで一問一答などの復習を行う。 ・下位層の生徒への日常的な個別指導を充実させる。 ・ICT機器を効果的に活用し、授業等の社会的事象に興味・関心をもたせる機会を多く設け、学校と社会生活を結び付ける。	・単元ごとに基礎的語句の定着状況を確認するため、さらに小テストの実施や授業内でワークシートやワークを活用した。 ・ICT機器を活用し、資料を読み取り、既習知識をもとに考え、生徒が表現する活動を、今後も継続して取り組んでいく。また、定期考査では、資料読解の問題を増やし、生徒の力の伸長を確認する。	・基礎的語句の定着を図るために、小テストの実施や授業内でワークシートや学習ワークを活用した。しかしながら定着の度合いに個人差が見られるので、今後も全体的に理解度を高め、基礎的語句の定着を図ることが課題である。 ・ICT機器を活用し、資料を読み取り、既習知識をもとに考え、表現する活動を意識して取り入れることができた。
数学	【調】第2学年は、目標値を下回り、達成率に課題がある。中でも、「数量や図形などについての知識・理解」、「数学的な技能」に課題がある。特に関数の内容の正答率が低かった。 【調】第3学年は、全国の平均正答率を上回っており新宿区学力定着度調査の結果は良好であった。達成率が68.6％で、学年が設定した目標値を上回っている。各観点においても、上回っているものが多く、昨年度と比較しても良好の傾向が見られる。これまで学校での授業や考査で基礎・基本を繰り返し指導してきた成果と考えられる。 【学】応用問題や文章を読解し、課題を把握することが苦手である。また、授業には意欲的だが、発展的な課題には消極的になってしまう。第2学年においては、小学校の学習内容の定着が不十分な生徒もいる。	・基本的な計算問題の定着が不十分である生徒もいる。基礎的な計算問題を解けるようにさせるようにする。 ・わからない課題だとすぐにあきらめてしまう傾向が見られる。興味を持って課題に取り組めるようにする。 ・文章を読み、的確に課題を読み取る力を高めことが課題である。 ・上位層の維持と下位層の引き上げを一層図ることが必要である。	・練習問題を繰り返し行い確実に基礎・基本の定着を図る。 ・授業のねらいを明確に示し、1単位時間の授業内で確実に知識や技能を身に付けさせ、達成感を与えるような授業を展開する。 ・ICT機器やデジタル教科書・動画を活用し、関心・意欲を高めさせる。また、課題の読み取り方について、問題演習を通して繰り返し指導する。 ・年間を通じて、習熟度別による少人数指導を行い、個に応じた指導を行う。習熟の程度に応じて、異なるプリント等を使用し、進度の早い生徒はより多くの課題に取り組むことができるようにする。 ・生徒がICT機器を使って発表する活動を取り入れる。	・単元ごとに小テストを実施し、基礎的な数学的語句の定着状況を確認する。 ・グラフや資料を読み取る問題については課題がある。今後は、確かな学力として、基本的な計算力とともに、内容を読み取る力を高める指導に取り組む。 ・ICT機器やデジタル教科書を活用しながら、授業のねらいを明確にし、分かりやすい授業を工夫して行う。また、生徒同士の教え合い活動から発表する機会を増やしていく。	・1学年では、基本的な計算問題の苦手な生徒が見られたが、東京ベーシック・ドリル等の計算プリントを教材に使い、授業内で反復練習など演習を行う時間を多く確保することによって、徐々に計算力が高められた。 ・発展的な課題だとすぐにあきらめてしまう生徒が多かったが、「知識活用の問題」を多く取りあげ、実生活に活用できる数学の問題を扱うことによって、発展的な問題でも興味関心をもって解こうとする姿勢が多く見られるようになった。 ・文章から数式に表したり、図形に書き込んだり、表に書き込むことが苦手な傾向が見られることが課題である。 ・生徒の興味関心を高め、基礎的な学力の定着を目指し、ICT機器を活用した授業を今後も継続していく。
	【学】全ての学年において、実験時のレポート作成時に現象を記録することはできているが、現象から規則性を導き出す力に課題が見られる。 【調】第3学年では、標準スコアが上昇しており、昨年度の取組みに効果が見られている。しかし、基礎の定着に課題が見られる。 【調】第2学年では、全体的に目標値を下回っており、全ての取組みにおいて課題が見られる。	・現象から規則性を導き出す力を高める。 ・理科に関する基礎、基本の定着を図る。 ・理科に対する苦手意識を改善することが必要である。	・実験時の考察において、前期に規則性を導き出しやすいよう、ヒントを与えながら取り組み、後期には自ら規則性を導き出せるように指導の工夫を図る。 ・小単元ごとに小テストを行い、生徒の学習状況を確認するとともに、下位層の生徒には補習、個別の課題を取り組ませる。 ・日常的に学習内容が普段の生活に活かされていることを紹介し、理科を身近な物として実感させていく。	・ヒントを与えることで少しずつ規則性を見いだせるようにはなってきたが、自ら見いだすのはまだ難しい。今後はヒントの出し方を考えながら考察させていくような指導を進めていく。 ・単元の振り返りの中で、知識が定着しつつある。下位層へのフォローを工夫して実施していく。 ・学年等に違いはあるが、学習に取り組めない生徒がいる。授業中確実にノートを写させるなど、学習に取り組む基本的な姿勢を身につけさせていく。	・ヒントを与えると、実験結果から規則性を考察することができるようになったが、実験結果から規則性を自主的に見いだすことはまだ困難な生徒が多い。今後は、ヒントの出し方を改善し、生徒が自分の力で規則性等を導き出せる力を育成していくことが課題である。 ・学習の振り返りを行う中で、基礎的な知識の定着に改善が見られた。今後も下位層に継続したフォローをしていく。 ・日常生活に関連づけながら、授業を実施することで、理科を身近に感じ、最初から拒否する生徒が少なくなってきた。より理科に興味をもたせる工夫を考えていく。

英語	調	第2学年では全ての観点において、平均を下回っており、単語力や文構造の理解など基礎の定着に課題が見られる。特に「表現の能力」を伸ばす必要がある。ただし、聞き取る力は都の平均値に近く、ALTの活用、聞き取りの時間を増加したことが力となっていると思われる。	・基礎的な語彙、文法力を定着させる必要がある。 ・英文を読み解く力が不十分であるので、向上させていく必要がある。	・定期的に小テスト等を実施し、生徒の理解度を測る。その際、理解の乏しい生徒に関しては適宜、課題を与える。 ・帯活動として、身近な話題を題材とした聞き取り活動を継続する。 ・帯活動として、90語程度の文章の読み取りに取り組ませる。 ・習熟の程度に応じて、異なるワークシート等を使用する。下位層をサポートすると共に、進度が早い生徒はより多くの課題に取り組むことができるようにする。	・単元ごとに小テストを実施し、生徒の理解度を図るとともに、個に応じた課題を設定し、基礎の定着を一層図る。 ・身近な話題を用いた英文の聞き取り活動を増やし、繰り返す中で、聞き取る力を身につけさせる。 ・帯活動として授業で副教材「読みトレ」を活用し、まとまった英文を短時間で読み取る力を身につけさせる。 ・個に応じた課題を提出物として徹底し、学力下位層の生徒に対して定期的にサポートを行う。	・単元ごとのテストを活用した基礎基本の定着を行ったが、把握した個々の課題について、適切な指導や指導の工夫が徹底できなかった。 ・ALTを活用し、英文の聞き取る活動の機会を増やした。生徒の聞き取る力が向上した。 ・まとまった英文を短時間で読み取る練習を繰り返すことで、英文の読解力の向上につながった。 ・個に応じた内容の課題に取り組ませ、提出等を徹底した。また学力下位層の生徒には、サポートを継続的にを行い、生徒の伸びを図った。
	調	第3学年では、全ての項目において目標値を上回っている、また、標準スコアも昨年度よりも上昇している。				
	調	第3学年では、読む力が他の観点に比べて低い。				
	学	第2学年では、提出物の学習状況が思わしくなく、学習習慣を身に付けさせたい。				

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況